

名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ

ラストワンマイル交通の課題解決をテーマに、

観光・交通を活性化させる人材育成と地域連携の取り組みから

新たなまちづくりの可能性を考える

第2回

地域共創 シンポジウム

国土交通省 共創・MASS実証プロジェクト

名古屋駅

ささしま
ライブ

中川運河



2025

2.15 (土)

参加無料

13:00 ▶▶ 17:00 [開場 12:30]

中京テレビ プラザC

名古屋市中村区平池町四丁目60-11

共創の力がまちを変える、 新しい価値を生み出す方法

基調講演



株式会社日本総合研究所
主席研究員
株式会社日本政策投資銀行
地域調査部 特任顧問 (非常勤)
特定非営利活動法人ComPus
地域経営支援ネットワーク 理事長

葉谷 浩介

コーディネーター



地域価値の再編による
新しいコミュニティづくりに
向けたストック・シェアリングを提言

名古屋学院大学名誉教授
井澤 知旦

MC



鍋島 舞

パネリスト



日建設計総合研究所
主席研究員 (役員待遇)
安藤 章



名鉄観光サービス株式会社
代表取締役社長
岩切 道郎



愛知大学
経営学部経営学科教授
太田 幸治

基調講演

葉谷 浩介

株式会社日本総合研究所 主席研究員
株式会社日本政策投資銀行 地域調査部 特任顧問 (非常勤)
特定非営利活動法人ComPus地域経営支援ネットワーク 理事長

山口県生まれの60歳。88年日本開発銀行(=現株式会社日本政策投資銀行)入行(2011年末まで正社員として在籍)。12年株式会社日本総合研究所主席研究員(会社に席のない単年度更新年俸制社員・現職)、株式会社日本政策投資銀行地域企画部特任顧問(非常勤・現職)。平成合併前3,200市町村全部を自費で巡歴し、地形・交通・産業・人口・郷土史等を把握。世界地理海外99ヶ国を自費にて巡歴(欧州は全独立国、米国は全50州を訪問)。自転車北海道・本州・四国・九州の各東西南北端をつなぐ形で、平成合併前市町村の46%を走破。鉄道国内の定期運行の鉄軌道(JR・民鉄・公共交通)の全線を完乗。地域振興、人口成熟問題、観光振興などに関し、精力的に研究・著作・講演を行う。著書に『デフレの正体』、『里山資本主義』(KADOKAWA)、『完全・しなやかな日本列島のつくりかた』、『観光立国の正体』(新潮社)、『世界まちかど地政学』(Next文芸春秋)など。近著に『誰も言わない日本の「実力」』(毎日新聞社)がある。

パネリスト

安藤 章

日建設計総合研究所
主席研究員 (役員待遇)

博士(工学・名古屋大学) 技術士(建設部門・都市及び地方計画)
専門分野は、先進モビリティやスマートシティ等デジタル技術を活用したまちづくりに関する研究・調査。名古屋大学・客員教授兼COI-NEXTモビリティ研究拠点の副プロジェクトリーダーのほか、筑波大学スポーツウェルネス都市創生コンソーシアム幹事委員兼非常勤講師等、大学との共同研究で、新しいまちの価値の創生やまちづくり手法に関するプロジェクトにも参画。国や自治体の政策委員なども数多く歴任。2022年より、名古屋大学と日建設計グループでモビリティとまちのミライを考える研究会(通称:モビまち研)を発足し運営している。

太田 幸治

愛知大学 経営学部経営学科教授

2024年に愛知大学が研究ブランディング事業として立ち上げた「愛知大学ささしま地域連携研究センター(通称:ASITASIA(アシタシア))」のセンター長を務める。ASITASIAでは大学とまちのあり方や、境界を越えた学びのあり方をテーマに大学と地域の様々な交流機会を創出するのみならず、愛知大学固有の地域連携教育について研究している。また、ASITASIAでは、講演会やトークライブを定期的に開催しており、これまでに、ささしま地域の企業の皆様、愛知大学の卒業生、教職員・学生等の参加を得ている。そして2025年度にはASITASIA主導で愛知大学の一般教養科目「名古屋ぶらり学」を開講する。

岩切 道郎

名鉄観光サービス株式会社
代表取締役社長

1986年、名古屋鉄道に入社。1995年、祖父が創業した宮崎交通に転職し、グループ経営に携わる。同社の経営が悪化した1998年以降は、再建計画の策定、実行に尽力した。最終的に、産業再生機構のフレームの中で再生を決断、同機構の支援を得たのちに引責辞任する。宮崎交通在籍時には、対外的に宮崎県・九州のバス・観光関係の公職を担い、宮崎市観光協会の理事として、同協会と中国・青島市旅游局との友好協約を締結するなど、地域の活性化を推進した。宮崎交通退社後、2007年に名古屋鉄道に再入社。高山の濃飛乗合自動車では、インバウンド誘致の武器となる路線バス活用の着地型旅行を商品化。名古屋鉄道では鉄道事業本部を経て、地域活性化推進本部では、本部立ち上げから地域との信頼関係構築に奔走した。2024年4月から現職。

リレートーク

井村 美里

水辺とまちの入口ACT株式会社

SUPでの水上散歩や、堀川を知らば名古屋が分かるディープな水辺ガイドなど、ナゴヤの水辺に人がいる風景の創出を進めています。当事業ではSUPが移動の手段として機能していくための調査をイベントを通して実施しています。近い将来SUPが水辺の交通手段として市民の身近なものとなりますように。

上原 悦子

愛知県

経済産業局産業部産業振興課次世代産業室課長補佐
自動運転事業を担当。都市部における新モビリティサービスの導入に向け、名古屋駅と鶴舞(STATION Ai)とを結ぶ自動運転車の運行を行っている。

小澤 勝志

一般社団法人フォーセット名古屋

一般社団法人フォーセット名古屋代表理事
リンナイ株式会社に籍中に、「中川運河助成ARToC10」を通じて中川運河再生活動に関わる。中川運河の歴史や風景に魅了され、2023年に仲間と一緒に中川運河での中間支援団体を設立。同年、中川運河をモチーフにしたZINE「縁を辿る」を個人出版。

坂野 広岳

愛知県立中川青和高等学校

商業科教諭 特別支援教育コーディネーター
2011年中川商業高校赴任(2023年中川青和高校へ改称)。昨年度より3年生の科目「課題研究」にて、グローバルデザインを開設。愛知県立港特別支援学校とともに中川運河及び中川区、港区をより身近に、より便利にするための策を考えることを授業内容とし、名古屋市、JAPICへの提案やクルーズ船のガイドを行っている。

藤塚 克也

ささしまライブまちづくり協議会
(名古屋臨海高速鉄道株式会社)

大学卒業時に鉄道業界を志すも願わず、通信会社に入社。平成19年に地元東海地区で開業したばかりの名古屋臨海高速鉄道(あおなみ線)に1期生として転職。経理担当時には、事業再生ADRの計画策定に関わり、その後、企画営業担当として、沿線地域と連携したイベントを企画するなかで鉄道による街づくりに興味関心を持つ。

福田 篤史

名古屋市

名古屋市住宅都市局都市計画部交通事業推進課室長
都心部のまちづくりと連携した新たな路面公共交通システム(SRT)の導入や、ガイドウェイバス次期システム(自動運転バス化)の検討を担当し、名古屋市が目指す「最先端モビリティ都市」の実現に向けて奮闘中。

全体コーディネーター

井澤 知旦

名古屋学院大学名誉教授

名古屋学院大学名誉教授 / 名古屋工業大学客員教授 / (株)都市研究所スペース顧問 / 博士(工学) / 技術士(建設部門) / 一級建築士 / 1952年大阪生まれ。1978年名古屋工業大学大学院工学研究科修士課程を修了後、民間シンクタンクへ就職。1990年に自ら都市計画系コンサルタントを設立し、代表取締役に就任。2012年～2023年名古屋学院大学教授、公共政策としての公共空間の管理・運営、地域経営としてのエリアマネジメント、環境と福祉の連携による「地集地活」型リサイクル運動と古着のアップサイクルなどに取り組む。最近では「ストック・シェアリング」をテーマに活動。そのほか、農業系、文化系、観光系のNPO等の活動にも参画。著書に「名古屋都市・空間論-消毒された都市から物語が生まれる都市へ-」(単著/日本都市学会賞(奥井記念賞)受賞)、「ストック・シェアリング-略-」(編著)、「よみがえるダウンタウン」(共訳)など多数

交通アクセス



プログラム

- 12:30 開場
- 13:00 オープニングトーク
- 13:10 リレートーク
- 14:00 基調講演
- 休憩15分 ——
- 15:15 パネルディスカッション
- 16:30 クロージングトーク

参加申込

参加ご希望の方は、こちらから事前にご登録ください。

<https://kyoso-nagoya.jp/symposium2025/>

オンライン参加可能

事前申込制 定員200名



主催 一般社団法人ささしまライブまちづくり協議会

後援予定 国土交通省中部運輸局 名古屋商工会議所 中部経済同友会
中部電力株式会社 JAPIC(一般社団法人日本プロジェクト産業協議会)

お問い合わせ

<https://canal-art.org/>
一般社団法人中川運河キャナルアート
052-211-9608 info@canal-art.org